

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09030190

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3	水産業の振興	事業優先度	A		
単位施策	3	消費・流通対策の拡大	政策事務分類	3		単独自治事務(その他)
事業名	低利用水産資源加工試験開発事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	9		産業振興課
事業主体	雄武町		関係課			#N/A
事業指標	試作品開発調査		関係課			#N/A
事業目標	1品目の調査		ハード/ソフト 事業区分	2		ソフト事業
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働	無		関係個別計画名			

133	全体計画 事業内容	平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計画内容	ほたての卵、ひも及びさけの白子など、これまで利用価値が低いため廃棄処分されていた未利用資源を活用し、商品(食材)開発試験を行うことにより、資源の有効活用及び付加価値向上を図り、地域での6次産業化を促進させるための調査事業を行う。	試作品開発調査	試作品開発調査	試作品開発調査	試作品開発調査	試作品開発調査
計画事業費	事業費(千円)	0	0	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
実績事業費	事業費(千円)	0	0	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
関連事項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		開発調査に向けた打合せの実施	開発調査に向けた打合せの実施	開発調査に向けた打合せの実施	開発調査に向けた打合せの実施
			※事務事業評価結果 C-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	試験品目数 3品目の調査	試作品開発調査 1品目の調査	試作品開発調査 1品目の調査	試作品開発調査 1品目の調査
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	全体達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
	備考欄					

事業名	低利用水産資源加工試験開発事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

様式1
平成28年度実施
平成29年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	水産加工業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	試験開発品目の調査数
【抱える課題やニーズは】	ほたて貝、さけについては、主要魚種として加工販売されており、ほたて卵やさけ白子などの廃棄物は、町外に買い取られ、大量廃棄の課題は解決されつつあるものの、町内での有効活用化には至っていない。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	未利用資源を余すことなく有効活用し、付加価値をつけた商品(食材)の開発による、地域における生産から加工・販売までの一体的な取組みの実施	①	試験開発品目の調査数
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	未利用資源を有効活用した商品(食材)開発を行い、その生産から加工・販売までの一体化した取組を実施することで、地域における6次産業化が促進され、水産業振興による雇用確保及び所得の向上が期待される。	②	試験開発品目の調査数
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	試作品開発調査に係る関係機関等との連携	関係機関と情報交換をしながら、状況の把握及び今後の事業の方向性等についての打合せを実施	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	未利用資源の有効活用は、新たな生産活動、また、これらに伴う新たな雇用確保につながるため、町も参画する必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	関係機関との情報交換等に基づく内部打合せを行い、今後の調査方法について検討を行った。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	調査・検討のため、事業費をかけずに実施した。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	雇用確保及び水産加工業者の所得向上につながることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
関係機関と情報交換の機会を設け、状況把握したものの、6次産業化の促進には至っていない。ニーズがあった場合に備えた事務行程の整理が必要である。	同左	

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持	継続/現状維持	
引き続き、事業目的の達成に向け調査を進めるが、低利用資源に限らず、水産資源の高付加価値化に向けた検討を進める必要がある。	同左	

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止